大阪府立茨田高等学校　平成 29 年度第３回学校協議会　記録

出席者

　協議委員　川村幸治委員、寺野雅之委員、藤田政治委員、板倉千恵子委員

　学 校 側　亀元校長、坂東教頭、松井首席、島田首席

欠席者

　早坂三郎委員、綿世良一委員

①学校長あいさつ

　〇学校の現状報告

②本校教育の現状についての説明

　〇平成２９年度学校教育自己診断結果

　〇大阪府立茨田高等学校　校則について

　〇平成３０年度からの学校運営協議会設置について

　〇協議委員からの意見

- 学校教育自己診断の結果を受けて茨田高校としては何を大切にしたいのか？
- 「学校の指導に納得ができる」の割合が低い事について、教員がカウンセリングマインドの生徒指導が出来ておれば、数値が高いはずなのでは？学校全体のガバナンスとして、生徒の納得させる指導が必要。
- 指導に不平等感や騒がしい生徒を注意しないことも含むのでは？
- 学校自己診断は、肯定的な意見の割合順ではなく、項目別で結果を見るべきである。順位は横に示せばよい。過去にはほとんどが否定的な割合が多かったが、今は肯定的な割合が多くなっている。
- アンケートの結果がどう生かされるか、生徒は期待していると思う。
- 校則について、見直すのは今がいい機会である。真面目にしている人が、不利益を受けないことが大切。
- 校則の中に生徒心得・運用・内規に当たるものが混在している。整理が必要。（禁止事項の破った時にどう運用するのか等）また、校則に関しては、定期的に見直しをすることが必要である。
- 大阪市では、規定（安全安心ルール）を文章でオープンにしているが、弾力的な運用も必要な部分もある。
- 周りの保護者には、茨田高校に来てよかったという意見が多い。生徒と保護者で意見が変わるのが現実である。教員自身の経験やバックグラウンドに関して生徒には十分に伝わっていると思う。

〇校長あいさつ

- 謝辞
- 診断の結果を踏まえて、次年度の計画を立てていく。